

COMESA月報（2019年3月）

主な動き

（１）貿易促進ツールのデジタル化が汚職リスクを削減する(2019. 3. 4)

カプウェプウェCOMESA事務局長はデジタル化された自由貿易地域、文書と手続きの簡素化・自動化等の貿易促進ツールを実施することによって、COMESA域内における汚職慣行に余地を与えるリスクに取り組むことになると述べた。COMESAビジネスカウンスルによる反汚職遵守研修に参加したザンビアの60企業に対して、カプウェプウェ事務局長は、悪習慣は国レベルだけの問題ではなく、地域的な問題でもあるとし、同事務局長は、汚職はしばしば国境において報告されており、それゆえに貿易と投資への重大な障壁となっているため、一地域として貿易促進を例として述べた。さらに同事務局長は、民間セクターは、汚職に対しての措置が講じられる際に忘れられがちであるため、汚職との戦いにおいては、民間セクターを組み込む必要性を強調した。

（２）インフレ予測のための金融当局のキャパシティビルディング(2019. 3. 19)

COMESA域内の多くの国において、金融政策枠組みが必要となるインフレへ徐々に移行しているため、金融当局が、精度の高いインフレを予測する技術を最新のものとする必要がある。現在の金融政策の決定においては、DSGEモデル(Dynamic Stochastic General Equilibrium Models)という、他の比較モデルよりも経済関係をミクロを基礎として理解されるモデルを通じて、相互関係にある各セクターと変化に関する情報と予測が必要とされる。2018年12月4日に行われた第39回COMESA中央銀行総裁委員会会合の指示により、COMESA金融政策機関は、「DSGEモデルと時間分析」という研修をナイロビで3月に実施した。研修の目的は、DSGEモデルを使った金融政策形成と実施の能力向上を図るものである。また、同研修は、COMESA金融政策機関が、高いレベルの金融統合に不可欠な地域レベルでの金融政策の調整機能を果たすことを可能とすることも意図されている。

（３）エジプト代表团はCOMESAにおける投資を模索(2019. 3. 21)

エジプト代表团がCOMESA事務局を訪問し、地域経済の様々なセクターで投資機会を模索する。エジプト産業連盟アフリカ協力委員会議長のシェリフ・エル・ギャバリー氏率いる35名の代表团は3月20日にカプウェプウェ事務局長と面談し、COMESA地域の投資資産に対する投資への関心を表明した。カプウェプウェCOMESA事務局長は、COMESA地域は、アフリカ大陸内外で投資に対して開かれたものとなっていて、特に、投資を促すメカニズムと政策は準備が整っている旨述べた。

（４）デジタルイエローカードの実施について保険専門家が議論（2019. 3. 28）

3月28日と29日に、保険の専門家らがガルサカでデジタルイエローカードIT委員会の第三回会合を開催した。会合はデジタルシステムの改良と実施、及びデジタルイエローカードのモバイルアプリケーションを扱う第2フェーズの実施状況の進捗が中心となった。COMESAデジタルイエローカードは、COMESAへの投資の市場統合を強化するために、モノ、サービス、資本及び人の継ぎ目のない流れ、及びCOMESA域内で設立と居住の権利を通じて、市場の統合を強化するCOMESA戦略にそったものとなっている。デジタルイエローカードは、貿易障壁の撤廃によって国境を越える貿易コストを低下させ、文書の簡素化と調和を通じた貿易の円滑化を確実にする。

（出典）COMESAウェブサイト(<http://www.comesa.int>) より